令和8年度　文京区アカデミー推進協議会
第3回分科会（文化芸術分野）概要記録

日　　時	令和8年9月9日（水）　18:30～20:07
会　　場	文京シビックセンター17階　福利健康会議室
出　席　委　員	垣内恵美子委員◎、髙澤芳郎委員、牧野恒良委員、野村美奈委員、 宮本長範委員、篠塚麻衣子委員、篠原秀徳委員、髙橋明弘委員　（座長◎）
欠　席　委　員	小木貢委員
事　　務　　局	吉本アカデミー推進課長、眞野アカデミー推進係長、髙見文化事業係長、 玉田文化資源担当室長（ふるさと歴史館長）
資　　料	次第、資料第１号　文化芸術分野の施策（案）、資料第２号　文京区アカデミー推進計画の点検・評価について、資料第３号　令和７年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案）
（議事） １　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	１．文化芸術分野の施策（案）について 分科会資料第1号に基づき、文化芸術分野の施策（案）について説明。 ○施策案は整理されているが、文化団体の発信力不足を痛感している。少子化の中で、こどもの目を芸術に向ける工夫として、リハーサルの公開など、親しみやすい情報発信の強化が必要と考えている。 ◎リハーサルの公開やSNS発信、次世代・こども向けの取組強化が盛り込まれており、委員の知恵も借りつつ、効果的な情報発信や環境づくりを具体化されたい。 ○多様な事業の中で「なぜ文化芸術か」の本質を再確認したい。伝統芸能等は継承の使命があるため、きっかけから深く学べる仕組みづくりが重要である。 ◎多様な文化の存在が文化の土壌を豊かにする。「多様な価値観に寄り添う」の言葉通り、伝統の継承と多様なアプローチを両立させ、持続的な環境構築に協力いただきたい。 ○障害等に配慮したアウトリーチ事業は、評価が高く継続を望む。対象をこどもやシニア層へ広げ、アート月間としての発信や地域の史跡と連携した体験プログラムを提案したい。 ○誰を対象とした指針か伝わりにくい。区民や関係団体等がどのように活用・参照するのか、計画の対象や位置付けを分かりやすく示すべきである。

	◆本計画は区民をはじめ文京区に関わる全対象に向けたものである。各施設や団体が、具体的に事業を企画・実施する際の指針として機能する。 ◎本計画は、区の施策方向性を示すものである。区民や関係団体が参照できるよう、Web等での適切な周知に努められたい。 ○若い世代やこどもに関する施策強化を評価する。対象年齢の定義（39歳まで等）を考慮しつつ、学校との連携を期待したい。一過性の体験に留めず、継続活動を支援する姿勢の明記は素晴らしい。 ○全体として分かりやすい。今後は、誰がどう行動し、何を目指すかの実行主体とプロセスを明確にすべきと考える。補足注釈等は、工夫してほしい。 ○次世代育成では、単にふれるだけでなく「必要性を実感させる」工夫が必要である。抽象表現を整え、目的語を明確にして区民等に届く優しい表現への修正案を提案したい。 ◎委員の意見を踏まえて、事務局で調整されたい。実態調査を踏まえた継続支援方針の明確化は評価できる。注釈等の表現調整を行うことで了承とする。 2. アカデミー推進計画の点検・評価について 分科会資料第2号・第3号に基づき、令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案）について説明。 （1）分野別基本方針① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる（鑑賞・観覧等）】について ○朗読コンテストは、出場者が全国から集まる一方で、観覧者が減少傾向にあり、著名人の招致など惹きつける工夫が必要ではないか。 ◆朗読コンテストは、予選を通過した16名が出場する。観覧者数増や認知度向上に向け、効果的な広報や企画の検討を進めたい。 ○コロナ禍後の参加人数の変化や事業規模に関し、小中学生向け出前コンサートは、希望校が多い場合の拡大や開催校数の拡充は可能か。 ◆出前コンサートは小学校2校・中学校2校で順次実施している。回数の増加には、学校側の受入体制等の様々な課題はあるが、機会確保に努めたい。

	◎学校側のカリキュラム上の制約もあるが、在学中に一度は生の文化芸術にふれる機会を確保できるよう工夫されたい。 (2)分野別基本方針② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】について ○区民オペラ公演の完売・チケット売上率100%達成等の実績は素晴らしいが、興行結果は年ごとの変動要素もあるため、単年の数値評価に偏らない柔軟な目標・評価表現を検討してはどうか。 ◆評価方法は検討したい。単なるリピーター獲得に留まらず、新規参加者の開拓を含め、広く区民に開かれた事業運営を引き続き推進していく。 (3)分野別基本方針③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】について ○親子向けコンサートの開催時期は工夫できないか。 ◆開催時期の工夫は検討可能である。 ○伝統芸能の体験講座の取組は貴重である。「触れる」のひらがな表記を検討してはどうか。 ◎「触れる」は文化政策上、多様なアクセスの意味で使用するが、区民にわかりやすいかは、事務局で検討願いたい。こども俳句大会の応募数の波については、教員の異動等の影響もあると思うが、周知を継続する必要がある。 (4)分野別基本方針④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進について ○ふるさと歴史館地下展示室の状況と、特別展の観覧料設定を確認したい。デジタルスタンプラリー等の継続展開も期待する。 ◆本年度は、歴史館地下展示室にて、特別展を再開予定であり、観覧料は、展示資料の搬送費等の実費を考慮し、規定内で設定している。 ◎全体として主要 KPI は概ね達成され評価できる。本日の意見や点検・評価結果をまとめ、今年度の評価とする。
2 閉会	